

3 経営環境・業績報告

経営環境

令和4年度のわが国経済は、政府による経済対策や日銀による金融緩和政策が下支えしたことに加え、経済活動正常化に伴う消費の増加や供給網の混乱等が改善したことに伴い持ち直しの動きが見られる場面もありましたが、各国中銀による金融引き締めの継続を受けた海外景気の下振れが外需の下押しに繋がりましたほか、物価の上昇や円安進行を背景とする商品価格の高騰が景気の下押し圧力になりますなど、総じて厳しい年度となりました。

金融面では、少子化に伴う人口減少等に加え、日銀の低金利政策の継続により、引き続き厳し

い運用環境となりました。一方でSDGs(持続可能な開発目標)・サステナブル経営やESG(環境・社会・企業統治)投資等をはじめとする環境・社会に配慮した取組みが世界規模で求められており、JAバンクとしても社会的使命の一つとして果たすべき優先事項となっています。

農業面では、新たな「食料・農業・農村基本計画」に基づき、JAグループでは、多様化する農業・組合員の实態とJAの経営環境の変化を踏まえ、「農業・地域から一層必要とされる存在」、「持続可能な経営基盤の維持・確立」を掲げ、取組みを強化しました。

業績報告

このような金融経済環境のもと、役職員一同、業績の向上と経営内容の充実に努めました。以下、業績をご報告いたします。

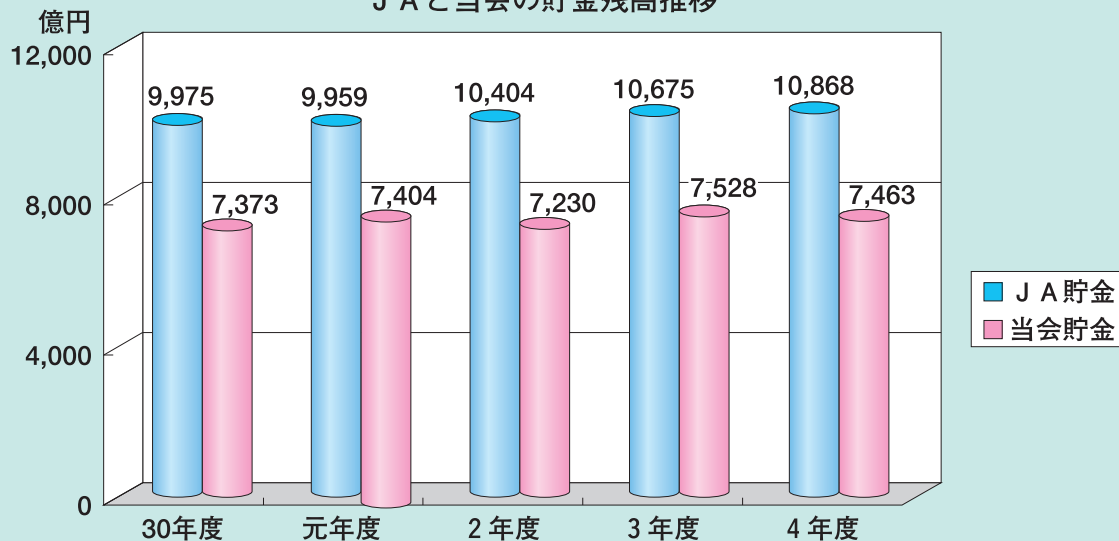
貯 金

県内JA貯金は、「集まる貯金」への取組強化による個人貯金の増加や公金貯金の積極的な取得が寄与し、期末残高については前年度比+1.8%の1兆868億円となりました。

当会の貯金は、長期安定資金の確保のため「JAバンク佐賀」としてJAと一体となった系

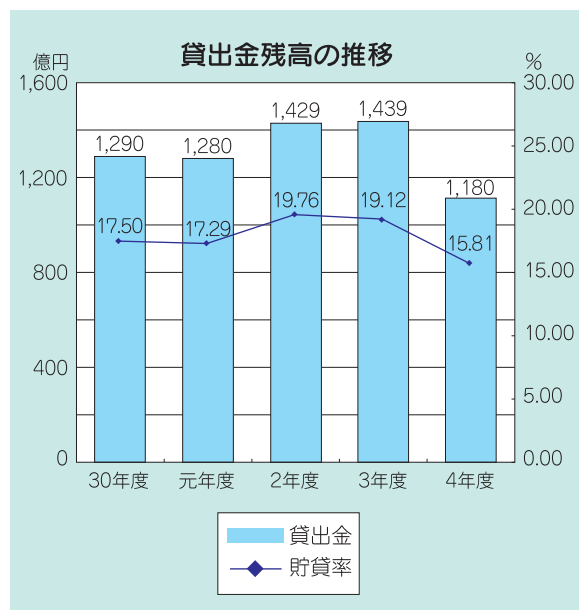
統貯金の増強に取り組むとともに、大口先を中心とした系統外貯金の獲得に努めたものの、期末残高は、JA自主運用額の増加に伴うJAからの受入貯金減少等により前年度比△0.8%の7,463億円となりました。

JAと当会の貯金残高推移



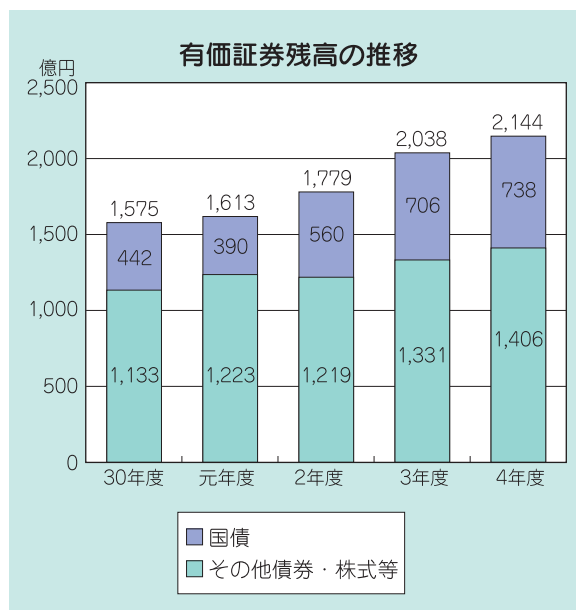
貸出金

貸出金は、地域金融機関として、食農関連企業を中心とした地場企業等への新規取引開拓ならびに既取引先との取引拡大に努めるとともに、金融機関貸付・シンジケートローン等への貸出については、収益性の高い案件を中心に絞り込んだ取組みを行った結果、期末残高は前年度比△18.0%の1,180億円となり、貯貸率は15.81%となりました。



有価証券

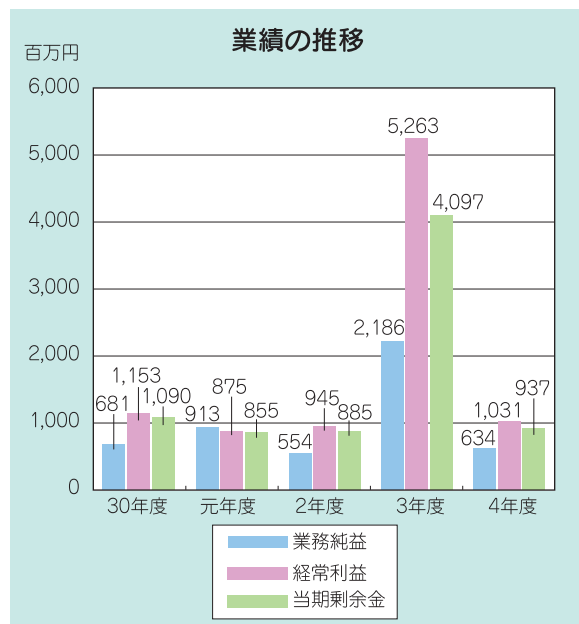
有価証券は市場動向の情報を収集しながら信用リスク・流動性リスクなどに留意し、長短金利差を享受するため国債・社債での運用や内外金利差および為替相場動向に着目した外国証券での運用を行うなど、リスク・リターンを考慮した効率的なポートフォリオの構築等に努めた結果、期末残高は前年度を上回る2,144億円となりました。



損益の状況

損益の状況は、資金運用の効率化や経費の抑制など経営全般にわたる合理化等を進めた結果、当期剰余金は937百万円を計上し当初計画を上回りました。

なお、前年度は会員JAへの長期安定還元に向けて2,400百万円の目的積立金を創設したこともあり、前年度対比では3,160百万円の減少となりました。



自己資本比率

自己資本比率は、利益剰余金の増加等により、自己資本額は前年度を上回る578億円となり、加えて預け金残高の減少や法人向け貸出の減少等に伴うリスク・アセットの減少により昨年度から+0.39ポイント上昇し17.21%となりました。

